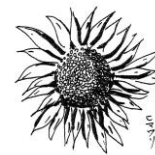


ビキニ被災支援 室戸の会

ニュース 2023年08月11日 No.53

発行 ビキニ被災を支援する室戸の会 太平洋核被災支援センター
連絡先 事務局 宿毛市 088-066-1763(山下) 室戸の会 0887-35-8725(濱田)



「なぜ私たちはこんな大切なことを知らないのだろう」

－中学生たちとビキニ事件(太平洋核被災事件)を学ぶ－

7月3日、室戸中学校の全校生徒のみなさんと、ビキニ事件を中心にして平和学習を行いました。若干のやり取りをしながら約50分のお話をさせていただきました。話の概要は次のようなものです。

<話の主な内容>

①今、ロシア-ウクライナ戦争がおこなわれており、核兵器の使用についても話題になっている。

②ところで、私たちは世界中の誰よりも核兵器の恐ろしさを知っています。皆さんは世界中の中学生の中で、最も核兵器の恐ろしさを知っている中学生なのです。

・生徒→ヒロシマ、ナガサキのこと・・・

③実は、私たちは、もう一つ被爆した体験を持っています

・生徒→？・・・

・1954年(昭和29年)に第5福竜丸が太平洋上で操業中にアメリカの核実験によって被曝しました。その実験はブラボー実験と言い、広島型原爆の1000倍の威力を持ったものだと言われています。その年の9月に無線士の久保山愛吉さんが亡くなりました。全国からお見舞いの手紙が送られたそうです。この手紙を見てください。室戸小学校の籠尾さんという方の手紙です。皆さんの多くは室戸小学校を卒業したのだと思いますが、皆さんの大先輩ですね。

・第五福竜丸はマグロ船です。当然その近くでは多くのマグロ船が操業していました。その多くは室戸の船でした。当時の新聞を見ると、第7大

丸、第5海福丸、第2幸成丸等がちゃんと報道されています。当時、日本中で約600隻のマグロ船が操業していました。その内の180隻は室戸のマグロ船です。

・政府は被ばくしたマグロの検査をし、汚染されたマグロは海に捨てました。マグロが売れなくなり、その損害は高知県で約9億円、日本全体では20億円に上ったと言われています。当時は、体への影響についてはあまり語られませんでした。
・1955年1月にアメリカ政府は見舞金200万ドル(約7億2千万円)の支払いをするので、これで「解決」にしてほしいといい、日本政府はそれを受け入れました。これにより、マグロの放射線検査も打ち切られました。

④考えてほしいことがあります。この「解決」の後どうなったのかということです。マグロ船はどうしたのかは、すぐにわかります。見舞金はわずかなものです。漁をしないと生活が出来ませんので、検査もないとなると一気に漁に出ていきます。さすがにマーシャル付近は避けて、さらに遠くクリスマス島やサモアの方まで行きました。

・さて、アメリカはどうしたでしょうか。ここが大事なところです。皆さんの手元に資料(アメリカの核実

験の年表)を配っています。隣の人と話合ってみてください。

- ・生徒→1956年から核実験が行われています
- ・太平洋上では何が起こり、船員さんらはどんなことを話していたか、想像してみてください。

⑤1957年1月にイギリスがクリスマス島で水爆実験をすると発表しました。さすがに堪忍袋の緒が切れたように、県内あちこちで「核実験阻止」の声が上がりました。室戸岬町や室戸町(今は室戸市)でも実験阻止のための町民大会がおこなわれています、「クリスマス島水爆実験阻止高知県実行委員会」がつくられ、高知県知事がその先頭に立っていました。そこでは、クリスマス島に抗議船団を派遣しようということが話し合われていました。

- ・最終的に抗議船団にはなりませんでしたが、5月24日に浦賀港(室戸のマグロ船の基地がありました)から第3良栄丸と第7幸鵬丸の二隻が「原水爆実験即時中止」のぼりを立てて海上デモを行い、クリスマス島方面に出漁していったのです。のぼりには他にも「止めよ原水爆実験世界の海で」「漁民は原水爆の実験台ではない」と書かれていました。

⑥この後、急速に反対運動は衰退していきます。そしてビキニ事件についても語られなくなっていったのです。

- ・ドキュメンタリー「X年後 汚名」(2016年 南海放送)の中で元船員の大西さんは「(1962年にもきのご雲を目撃したことについて)その時もお日様が消えて、またポコツと出てきた。お日様が割れたという言うたことよ。大騒ぎらあしやせん。(口に指をあてて)これだから。言われん言うていわれちゅうがやき。魚が売れんようになるから、言われんいうていわれちゅうがやき。この時は放射線も何も浴びん。浴びたかどうかわからない。検査をやらざったき。」と語っています。※このシーンは映像を見てもらいました。

⑦室戸の船はマーシャルから離れたところで操業していた船もたくさんあります。しかし、その船が獲ったマグロからも放射線が検出され廃棄しています。

- ・放射性微粒子の混じったスコールをシャワー変わりにしていました。放射性微粒子の混じった海水のしびきを浴びながらの仕事です。食事の米をその海水で研いでいたと聞きました。汚染されていただろうマグロが食事の時のおかずでした。放射性微粒子はそのようにして体内に入り、じわじわと放射線を出し続けた可能性があります。こういうのを、「内部被ばく」といいます。

⑧今、何人かの元船員の方が遺族の方が、補償を求めて、また核兵器がなくなることを訴えて裁判をおこなっています。

- ・3月には、市役所のロビーで資料展もおこなわれ、元船員の方が体験を語ってくれました。

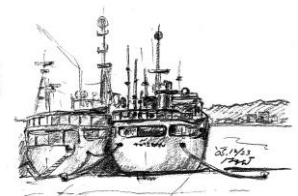
- ・核兵器は1945年以前はなかったのです。1945年の7月にアメリカで実験が行われ、8月に広島と長崎で「使用」され、その後も1962年まで太平洋上などで何度も何度も繰り返し実験がおこなわれてきました。核弾頭の数が一番多かったのは1985年頃で約7万発があったと言われています。今は1万4千発があるとわれています。

- ・核兵器を持っているのはわずかな国です。ほとんどの国は持っていないし、以前持っていたけど持つのを止めたという国もあります。核がある限り、使用は無論、事故が起きればとてつもない大きな被害が出ます。また、核は、脅しにも使われています。本当に平和な世界とはどういう世界なのか、これからも一緒に考えていけたらと思います。(以上)

生徒のみなさんが、感想を書いてくれましたので、少しだけですが紹介します。

<感想>

○今日は平和学習の時間をとってくれてありがとうございました。私は、ナガサキと広島だけで終わっていると思っていたけど、その外にもかかわっている場所



があって、それに、それが室戸だということに驚きました。ヒロシマとナガサキは 15kt と 20kt でそれだけでも被害がすごかったのに、一番すごいところで、1951 年のグリーンハウス作戦は 399kt や 1954 年のキャッスル作戦は 42Mt(ビキニ島)だと知ってびっくりしました。また、アメリカと約束をしたにもかかわらず、何回も太平洋核実験が行われていてやばいなと思いました。また、魚とか放射線で汚染されてやばいなと思いました。また、魚とか放射線で汚染されていてとても苦しきただろうなと思った。今日は本当にありがとうございました。

○広島長崎の時でも映像で見る限り、すごい恐ろしいものだと感じたことが、それよりもはるかに大きいものだと思って、なんで今まで知らなかったんだろうと思った。室戸に住んでいても知らなかったのでもっと学びたいなと思った。海水や雨を浴びただけでも、のちにガンになったり、離れていても恐ろしいことがわかった。核実験が行われていたことは知っていたが、回数を見て驚いた。今日核兵器の恐ろ

しさを知れてよかったし良い機会になった。興味深い話でもっとこのことについて知りたいと思った。

これらの感想からもいろいろと考えさせられます。なんと言っても「なんで今まで知らなかったのだろう」という言葉には、とても責任を感じます。それはものすごくいろいろな理由があるのだろうけれど、そのことも含めて一緒に考えていくことが、大事だと思います。最後に生徒のみなさんには、30 年後には核兵器は無くなっていますか？と問いました。生徒のみなさんが 40 代になり、子育てをしている時です。その時までには世界から戦争がなくなっていてほしいし、核によって脅したり脅されたりすることのない世界になってほしいと思ったのです。そして、そのことは私たち大人の仕事でもあるとあらためて思ったことでした。

追伸 次の日に、二年生の女子生徒が「おじいちゃんがマグロ船に乗っていたと言っていました」といって話しかけて来てくれました。話を聞くと、以前私が訪ねていったことのある方でした。お話をしてくださっていたのだと嬉しく思ったことでした。(2023.8.11 濱田)

令和 5 年 長崎平和宣言

今年も 8/6 に広島市、8/9 に長崎市が平和宣言を発表しています。二つの宣言とも、核を持つことで平和になるという「核抑止」から脱却し、核兵器禁止条約に参加することを求めているのが大きな特徴のように思います。長崎の平和宣言を紹介します。

「突然、背後から虹のような光が目に入り、強烈な爆風で吹き飛ばされ、道路に叩きつけられました。背中に手を当てると、着ていた物は何もなく、ヌルヌルと焼けただれた皮膚がべっとり付いてきました。3 年 7 か月の病院生活、その内の 1 年 9 か月は背中一面大火傷のため、うつ伏せのままで死の淵をさまよいました。私の胸は床擦れで骨まで腐りました。今でも胸は深くえぐり取ったようになり、肋骨の間から心臓の動いているのが見えます。」

これは 16 歳で被爆し、背中に真っ赤な大火傷を負った谷口稜嘩さんが語った体験です。

1945 年 8 月 9 日午前 11 時 2 分、長崎の上空で炸裂した 1 発の原子爆弾により、その年のうちに 7 万 4 千人の命が奪われました。生き延びた被爆者も、数年後、数十年後に白血病やがんなどを発症し、放射線の影響による苦しみや不安を今なお抱えています。

谷口さんは 6 年前にこの世を去りましたが、生前、まさに今の世界を予見したかのような次の言葉を遺しました。

「過去の苦しみなど忘れ去られつつあるようにみえます。私はその忘却を恐れます。忘却が新しい原爆肯定へと流れていくことを恐れます。」

長期化するウクライナ侵攻の中で、ロシアは核兵器による威嚇を続けています。他の核保有国でも核兵器への依存を強める動きや、核戦力を増強する動きが加速し、核戦争の危機が一段と高まっています。

今、私たちに何が必要なのでしょうか。

「78年前に原子雲の下で人間に何が起こったのか」という原点に立ち返り、「今、核戦争が始まったら、地球に、人類にどんなことが起きるのか」という根源的な問いに向き合うべきです。

今年5月のG7広島サミットでは、参加各国リーダーがそろって広島平和記念資料館を訪れ、被爆者と面会し、被爆の実相を知ることの重要性を自らの行動で世界に示しました。また、このサミットの成果文書である「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」では、「核戦争に勝者はいない。決して戦ってはならない」ということが再確認されました。

しかし、この広島ビジョンは、核兵器を持つことで自国の安全を守るという「核抑止」を前提としています。核抑止の危うさはロシアだけではなくありません。核抑止に依存しては、核兵器のない世界を実現することはできません。私たちの安全を本当に守るためには、地球上から核兵器をなくすしかないので。

核保有国と核の傘の下にいる国のリーダーに訴えます。

今こそ、核抑止への依存からの脱却を勇気を持って決断すべきです。人間を中心に据えた安全保障の考えのもと、対決ではなく対話によって核兵器廃絶への道を着実に歩むよう求めます。

日本政府と国会議員に訴えます。

唯一の戦争被爆国の行動を世界が見つめています。核兵器廃絶への決意を明確に示すために、核兵器禁止条約の第2回締約国会議にオブザーバー参加し、一日も早く条約に署名・批准してください。そして、憲法の平和の理念を堅持するとともに、朝鮮半島の非核化、北東アジア非核兵器地帯構想など、この地域の軍縮と緊張緩和に向けた外交努力を求めます。

地球に生きるすべての皆さん、一度立ち止まって、考えてみてください。

被爆者は、思い出すのも辛い自らの被爆体験を語ることで、核兵器がいかに非人道的な兵器であるのかを世界に訴え続けてきました。この訴えこそが、78年間、核兵器を使わせなかった「抑止力」となってきたのではないのでしょうか。

その被爆者の平均年齢は、今年85歳を超えました。被爆者がいなくなる時代を迎えようとしている中、この本当の意味での「抑止力」をこれからも持ち続けられるか、そして核兵器を廃絶できるかは、私たち一人ひとりの行動にかかっています。

被爆地を訪れ、核兵器による結末を自分の目で見て、感じてください。そして、世界中で語り継ぐべき人類共通の遺産ともいえる被爆者の体験に耳を傾けてください。

被爆の実相を知ることが、核兵器のない世界への出発点であり、世界を変えていく原動力にもなり得るのです。

私は、両親ともに被爆者である被爆二世です。「長崎を最後の被爆地に」するため、私を含めた次の世代が被爆者の思いをしっかりと受け継ぎ、平和のバトンを未来につないでいきます。

日本政府には、被爆者援護のさらなる充実と一日も早い被爆体験者の救済を強く求めます。

原子爆弾により亡くなられた方々に心から哀悼の意を捧げるとともに、長崎は、広島、沖縄、そして放射能の被害を受けた福島をはじめ、平和を希求するすべての人々と連帯し、「平和の文化」を世界中に広め、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に力を尽くし続けることをここに宣言します。

2023年(令和5年)8月9日

長崎市長

鈴木 史朗

